

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 4	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
<p>Relationship of alcohol intake and sex steroid concentrations in blood in pre- and post-menopausal women: the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition.</p> <p>(閉経前、閉経後の女性におけるアルコール摂取と性ステロイド血中濃度との関係: 癌と栄養に関するヨーロッパ前向き調査)</p>	
執筆者	
Rinaldi S, Peeters PH, Bezemer ID, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 17(8): 1033-43. (2006)	
キーワード	
アルコール、性ステロイド、乳癌、危険因子	
要 旨	
<p>目的: 中等度のアルコール摂取をしている女性は非飲酒女性と比べて性ステロイド血清濃度が高く、乳癌発症の危険性が高い。この研究で我々は、アルコール摂取と性ステロイドならびに性ホルモン結合グロブリン (SHBG) 血清レベルについて、癌と栄養に関するヨーロッパ前向き調査での 790 人の閉経前、1291 人の閉経後の女性で調査した。</p> <p>方法: testosterone (T)、androstenedione (Delta4)、dehydroepiandrosterone sulphate (DHEAS)、estrone (E1)、estradiol (E2)、SHBG を直接免疫アッセイ法で測定した。フリーT (fT)、フリーE2 (fE2) は質量作用法則に従って計算した。アルコール摂取については食事調査表から評価した。</p> <p>結果: 25 g/日以上アルコールを消費している閉経前の女性では非飲酒の女性と比較して、約 30%高い DHEAS、T、fT、20%高い Delta4、そして 40%高い E1 濃度であった。これらのグループでの E2、fE2、SHBG 濃度はアルコール摂取との関連はなかった。25 g/日以上アルコールを消費している閉経後の女性では非飲酒の女性と比べて、10 から 20%高い DHEAS、fT、T、Delta4、E1 濃度であった。一方、E2 あるいは fE2 濃度はアルコール摂取と関連性はなかった。SHBG レベルは非飲酒女性と比べてアルコール摂取グループで 15%低値であった。</p> <p>結論: 本研究の結果は、性ホルモン血中濃度に関してアルコール摂取は影響を与え、乳癌発症の危険性と関連しているという仮説を支持するものである。</p>	